

第二部 事業概要

I 施設概要及び沿革

1 設立理念

- 市民の戦争体験や当時の暮らしを物語る資料などを保存・継承していく施設
- 戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについて考える機会を提供する施設

2 開館の背景

戦時中、北九州地域(以下、「北九州」という)においては、1945年8月8日の「八幡大空襲」をはじめ、数多くの戦争の悲劇がもたらされた。また、8月9日には、原爆を搭載したB29が第一投下目標であった小倉陸軍造兵廠に飛来したが、視界が悪く第二目標の長崎に向かった。私たちは、現在の私たちの平和と繁栄が、過去の戦争による多くの尊い犠牲の上に成り立っていることを決して忘れてはならない。

戦後、長い時間が経過し、戦争の悲惨な体験や戦時下の暮らしを知らない世代がほとんどとなり、戦争の記憶が風化していくことが全国的に懸念される中、北九州市では、2010年に「北九州市非核平和都市宣言」を行い、様々な平和への取り組みを進めてきた。

そして、北九州で起きた戦争の悲劇や市民の暮らしを後世に伝える施設として、令和4年4月に「北九州市平和のまちミュージアム」を設置した。

3 開館記念式典

■ 日時

2022年4月19日(火) 11:00~11:40

■ 参加者

45名

市長、市議会議長、副議長、田上長崎市長(当時)、関係団体(北九州市遺族会連合会、原爆被害者の会、自治会)等

■ 次第

- ① 主催者挨拶
- ② 来賓挨拶
- ③ 「被爆クスノキ」苗木の贈呈 田上長崎市長から北橋北九州市長へ
- ④ 「嘉代子桜」植樹式
- ⑤ 非核平和都市宣言 唱和
- ⑥ テープカット
- ⑦ 閉会后、展示室内覧



4 施設概要

■ 名称

北九州市平和のまちミュージアム

■ 住所

北九州市小倉北区城内 4 番 10 号

■ 構造等

鉄骨造(地上1階)約 940 ㎡

■ 諸室構成

展示室(約 340 ㎡)、収蔵庫(約 125 ㎡)、多目的室(約 70 ㎡)など

■ 入館料

	一般	中学生・高校生	小学生
個人	200円	100円	50円
団体(30名以上)	160円	80円	40円

■ 開館時間

9:30~18:00(最終入館は 17:30)

■ 休館日

月曜日(祝日の場合は火曜日)、年末年始、その他(館内整理日)



5 沿革

- 2016年12月 ・北九州市が戦時資料の充実を図り、資料を保存・調査研究・活用をするために「資料館」建設の計画を表明
・「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」設置
- 2017年1月～ ・「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」開催
開催実績 第1回:2017年1月18日
第2回:2017年2月15日
第3回:2017年3月24日
第4回:2017年4月18日
第5回:2017年5月24日
- 2018年1月 ・「(仮称)平和資料館基本計画(案)」策定
11月 ・「(仮称)平和資料館基本設計(案)」策定
- 2019年8月 ・「(仮称)平和資料館解説準備懇話会」設置
8月～ ・「(仮称)平和資料館解説準備懇話会」開催
開催実績 第1回:2019年8月27日
第2回:2020年1月30日
第3回:2020年8月26日
第4回:2021年7月1日
第5回:2022年1月14日
- 2021年10月 ・北九州市平和のまちミュージアム条例公布
- 2022年4月 ・19日、北九州市平和のまちミュージアム条例施行、北九州市平和のまちミュージアム開館、開館記念式典開催
・北九州市平和のまちミュージアム開館記念企画展「原子爆弾と模擬爆弾”パンプキン”」(4月19日～8月28日)
7月 ・22日、「北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会」設置
9月 ・企画展「”軍都”北九州の歩みとその痕跡」(9月3日～10月30日)
11月 ・企画展「令和4年度 収蔵品展」(11月12日～1月22日)
- 2023年2月 ・北九州市制60周年記念事業・企画展「北九州市ができるまで～戦後復興の軌跡～」(2月4日～5月7日)

II 展示事業

1 常設展示

(1) 概要

北九州の戦前から戦後にかけて、五市合併による北九州市の成立にいたるまでの、地域の人々の暮らしの変化のなかに、北九州における戦争の時代を位置付けて展示してい

る。市民の戦争体験の記憶や、当時の暮らしを物語る日用品等を通して、当館の目的の一つである、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える場を提供している。

常設展示の構築にあたっては、北九州市民の戦争体験の記憶 87 件を編集した『後世に語り継ぐ北九州市民の戦争体験』(北九州市総務局総務課 2017)を重要な資料として活用した。

展示にあたっては、実物資料に加え、来館者が当時の暮らしを体感できるよう、映像や音響設備を駆使している。

(2) 各展示ゾーン

「1 戦前の北九州」

旧五市(門司、小倉、若松、八幡、戸畑)の特色や、活気があった 1920 年代後半から 1930 年代の北九州の繁栄と市民の暮らしを展示している。また、小倉と軍との深い関わりを紹介し、プロジェクションマッピングを用いて小倉陸軍造兵廠をリアルに再現している。



「2 戦争と市民の暮らし」

当時の一般的な家庭の暮らしがわかる再現展示や、子どもたちの生活等がわかる実物資料を提示し、日々の暮らしが戦争と隣り合わせにあったことを語っている。



「3 広がる戦争と空襲」

当時の写真をはじめ、焼夷弾の実物大の模型など、市民を襲う空襲に関連する資料を展示している。特に「360 度シアター 運命の 1945 年 8 月 8 日・9 日」では、8 月 8 日の八幡大空襲、そして翌 9 日に原爆を搭載した B29 爆撃機が、投下第一目標地である小倉上空に飛来した後、第二目標地である長崎に向かった出来事を、アニメーションと最新の音響設備を駆使して再現した。



「4 終戦の混乱と戦後復興」

旧五市が復興への歩みを進める姿を映像や写真、実物資料で紹介し、再び発展を始め、1963年に旧五市が合併して北九州市が誕生するまでの“まち”の移り変わりを語っている。



2 企画展示

2022年度は、4回の企画展を実施し、常設展を補完するようなテーマを深く掘り下げた。

(1) 開館記念企画展「原子爆弾と模擬爆弾“パンプキン”」

■ 展示概要

長崎市原爆資料館の協力のもと、原子爆弾投下により時を止めた時計等、原爆被害の実相を物語る実物資料の展示を行った。

またアメリカによる日本空襲の研究家・工藤洋三氏の監修のもと、原子爆弾投下目標地の決定経緯を明らかにする公文書や、原子爆弾の投下訓練に使用された模擬爆弾「パンプキン」に関する写真等のパネル展示を行った。

■ 開催期間

2022年4月19日(火)～2022年8月28日(日)

■ 開催場所

北九州市平和のまちミュージアム企画展示室

(2) 企画展「“軍都”北九州の歩みとその痕跡」

■ 展示概要

北九州と軍隊との関わりを示す実物資料を展示した。新たに寄贈された、小倉陸軍造兵廠で勤務していた方の日誌を初めて公開した。

そして、北九州が軍隊とどのように関わってきたのかを紹介し、併せて現在も北九州市内に残る戦争遺跡を紹介するパネル展示を行った。

■ 開催期間

2022年9月3日(土)～2022年10月30日(日)

■ 開催場所

北九州市平和のまちミュージアム内 企画展示室

(3) 企画展「令和4年度 収蔵品展」

■ 展示概要

これまで北九州市が収蔵してきた戦時資料、及び今年度当館が収集した新規寄贈資料の中から、選りすぐりの約50点の資料を展示した。

「戦地からの通信」、「『銃後』の女性たち」、「戦時下の子どもたち」、「とある市民と永井隆博士」の4つの小テーマに分けて展示をした。

■ 開催期間

2022年11月12日(土)～2023年1月22日(日)

■ 開催場所

北九州市平和のまちミュージアム内 企画展示室

(4) 北九州市制60周年記念企画展

「北九州市ができるまで ～戦後復興の軌跡～」

■ 展示概要

北九州地域が、空襲被害や戦後の混乱からいかにして復興を果たしていったのかを、寄贈資料やパネル等で紹介し、終戦後から北九州市誕生までの歩みを振り返った。

また、今回特別に北九州市立美術館の協力を得て、旧八幡市の戦災復興を象徴する「復興平和記念像」のマケット(製作過程で試作した模型)を展示した。

■ 開催期間

2023年2月4日(土)～2023年5月7日(日)

■ 開催場所

北九州市平和のまちミュージアム内 企画展示室

■ 学芸員によるギャラリートーク

本企画展より、企画展示にともなうイベントとして、学芸員のギャラリートークを3回実施した。合わせて約60名の方の参加があり、パネルによる展示解説以上の情報に触れることができたと好評であった。

2022年2月11日(土・祝)、3月11日(土)、5月7日(土)のいずれも14:00～14:30

Ⅲ 資料収集・保存事業

1 資料の収集

■ 戦時資料の再整理

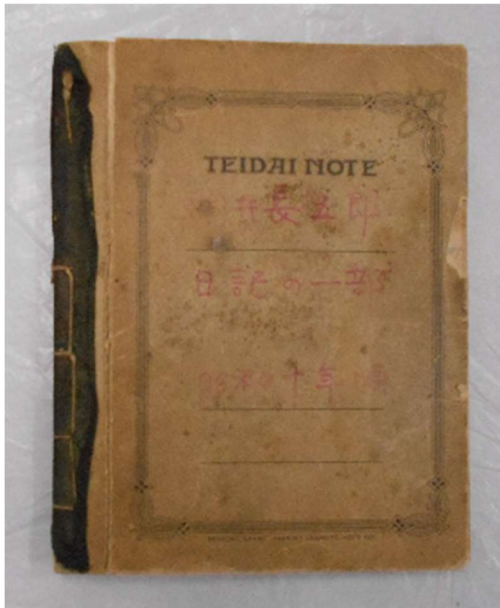
市保健福祉局が収集し、戦時資料展示コーナーに保管されていた戦時資料を引き継ぎ、適宜再整理を実施した。

■ 2022年度の新規寄贈資料

開館～2023年3月末までに、13名(1団体含む)の方から計343点の資料の寄贈を受け、目録化を行った。

新規寄贈資料のうち、代表的なものを以下に掲げる。

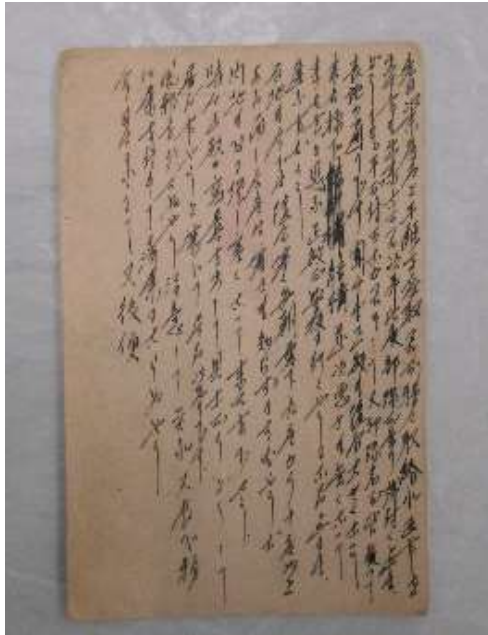
① 小倉工廠職工長の日誌



1935(昭和 10)年 4 月ごろから翌年 2 月ごろまでの日誌。勤務上の事項を記した業務日誌と、私的で簡潔な日記が記されている。

当時の工廠内部の様子や、工員生活の一端がうかがえる。

② 軍事郵便



1940(昭和 15)年 11 月に、中国戦線から送られた葉書。出征後に生まれた我が子への想いが記されている。

寄贈を受けた、同人物からの軍事郵便は、約 50 通にのぼる。

③ 合同葬儀写真帖



門司市で行われた、戦死者合同葬儀の様態を写したものの。

■ 収蔵資料の点数（2023年3月末現在）

	資料分類	点数		資料分類	点数
紙類	手紙・はがき	620	金属類	金属製食器類	12
	債券・証券	364		飯盒	11
	通知書・証書・書類	407		水筒	16
	写真・アルバム	329		鉄兜	1
	日記・手記	26		弾丸・砲弾	14
	手帳	48		金属製日用品	22
	書籍・冊子	197		その他金属類	20
	雑誌	26	その他	勲章・記章類	259
	ビラ・チラシ	62		紙幣・貨幣・軍票	215
	絵画・ポスター	21		陶磁器類・ガラス類	299
	地図	13		その他食器	4
	新聞・スクラップ	41		木製物品	18
	通帳・切符	97		電球	1
	その他紙類	165		腕章	17
布類	軍服類・軍帽	113		階級章(襟章・肩章類)	48
	軍靴・ゲートル	26		フィルム・ビデオ	5
	その他軍用品	40		レコード	2
	カバン・行李	24	木箱類	8	
	防空頭巾	2	その他雑類	49	
	一般衣類	13			
	袋類	23			
	日の丸寄せ書き	26			
	千人針	4			
	その他布類	46			
		合計	3,754		

2 資料のデータ化および複製

■ 『写真週報』のデータ化・複製

北九州市立大学図書館に所蔵されている、内閣情報部発行『写真週報』365冊をデータ化し、複製資料を作成した。

IV 映像資料

「北九州の戦争の記憶・私たちへの伝言」(DVD)

V 教育普及事業

当館では、展示と資料収集だけでなく、小学生の「平和のまちスタディツアー」の実施、各種の講座の企画、長崎市との交流事業などに多くの力をそそいできた。こうした事業と、展示事業との相関のなかで、より幅広くそして深い学びにむけた筋道を作り出すことを目指している。

また、2022年度は、北九州市立大学を始めとする近隣大学との連携のありかたについて、試行錯誤を繰り返してきた。教育機関でありまた研究機関でもある大学との連携は、若い世代と当館との関係を構築するとともに、当館の調査・研究機能を一層高度にしていくために重要であると位置づけている。

ほかにも、教育委員会の「未来のとびらオンライン授業」として、学芸員が中継で当館展示を解説しながら授業を行うなど、新たな活用方法にも挑戦している。

1 平和のまちスタディツアー

■ 概要

北九州市内の小学6年生を対象に、当館での学芸員等による展示解説や、本市独自に作成した副読本を用いた平和学習を行うとともに、近隣の歴史・文化施設(松本清張記念館・文学館・小倉城)や議会棟を見学する。

参加する各学校の児童は、平和学習に加えて、地域の歴史・文化、議会や選挙制度(主権者教育)を学ぶ。

■ 対象

原則として小学6年生(私立小学校も含む)

■ 内容

① 訪問施設

「平和のまちミュージアム」 + 下記コースの施設(1コースを選択)

コース	訪問施設
A	議会棟(時期は6月中旬～7月、10月～11月、1月～2月中旬に限る)
B	文学館&松本清張記念館 ※ 原則、両施設を訪問 ただし、文学館のみの訪問日あり
C	子ども図書館
D	小倉城(小倉城庭園) ※ 小倉城庭園の訪問も可能
E	その他(水環境館見学、勝山公園散策等) ※ 徒歩圏内、各学校で要調整

② 学習パターン

「平和のまちミュージアム」のほか、A～Eのいずれかのコースを「午前」あるいは「午後」の半日で訪問する。

③ 時間設定

「平和のまちミュージアム」とA～Eのうち1コースをそれぞれ「60分」

	先に訪問する施設	後に訪問する施設
午前	① 9:30～10:30	② 10:45～11:45
午後	① 13:15～14:15	② 14:30～15:30

④ 受入単位

2クラス程度(上限80人程度)

⑤ 実施時期

2022年6月～2023年3月(学校の長期休業日を除く)

⑥ 実施曜日

火曜日、水曜日、木曜日、金曜日(祝日は不可)

■ 実績(次ページ付表参照)

スタディツアーで当館に来館した小学校数は120校、総計7,336名であった。各校が選択した見学場所を含めた実績は、以下の通りである。模擬選挙を実施した議会棟、クイズラリーを実施した文学館など各施設とも、小学生の興味にうったえる工夫を凝らして対応した。



■ 大学生ボランティアの活用

なお、当館にスタディツアーで来館した小学生の展示案内に、北九州市立大学の421Lab.所属の学生 4 名がボランティアで参加した。生徒たちの誘導や、声掛けをして展示物に集中させ、関心を起こさせるなど、当館スタッフに準じて活躍した。今後、大学生との連携を充実させていく上で、一つのモデルとなるケースであった。

【付表】

令和4年度 平和のまちスタディツアー実績

月	A	B	C	D	E	合計 (校)	児童・教員数 (人)
	議会棟	文学館 & 松本清張	子ども 図書館	小倉城	その他		
6	14 (694人)	1 (104人)		18 (1298人)	2 (120人)	35	2,216
7	13 (695人)		1 (24人)	4 (288人)	1 (148人)	19	1,155
9			5 (251人)	16 (794人)	3 (180人)	24	1,225
10	10 (397人)			5 (391人)	1 (28人)	16	816
11	10 (738人)	1 (116人)	1 (47人)	7 (491人)		19	1,392
12		1 (54人)		3 (313人)		4	367
1	1 (66人)		1 (61人)			2	127
2				1 (38人)		1	38
3						0	0
合計	48 (2590人)	3 (274人)	8 (383人)	54 (3613人)	7 (476人)	120	7,336

2 夏休み親子講座

夏休みの自由研究などにも対応できるよう、市内在住の小中学生とその保護者を対象に「夏期特別講座」として「平和の思いを未来につなぐのは“あなた”です」と題し、当館多目的スペースで、3回連続の講座を実施した。

いずれの回も、コロナ下での多目的スペース収容人数の限界である約 20 名の参加者があった。

■ 日程及び概要

① 第 1 回目

日時:2022年8月7日(日) 10:00~11:30

講師:いのちのたび博物館 歴史課長 日比野 利信

概要:第 2 回目以降に体験者等の話を聞く前に、近代史の専門家・日比野氏より当時の小倉、北九州市の空襲、長崎原爆に関する歴史を学んだ。

② 第 2 回目

日時:2022年8月11日(木・祝) 10:00~11:30

講師:児童文学作家 黒瀬 圭子

概要:黒瀬氏の門司での戦争体験を語っていただくとともに、自身の戦争体験をもとに描いた絵本『白いなす』を、参加者とともに朗読した。

③ 第 3 回目

日時:2022年8月21日(日) 13:30~15:00

講師:長崎市家族証言者 原田 小鈴

概要:広島と長崎の両方で被爆した原田氏の祖父・山口疆氏の体験と人生についてお話いただいた。また、それをもとに原田氏が作成した紙芝居を、参加者が輪番で上演し、他者の戦争体験を語った。

3 長崎市との交流事業

(1) 青少年ピースフォーラム派遣事業

北九州市では市の平和事業の一環として、2014 年より青少年ピースフォーラム派遣事業を実施してきた。2022 年度からは当館が事業を引き継ぎ、当館の展示の見学、講義などにより、事前学習を十分行ったうえで、長崎派遣に臨むこととし、これまで以上に、深い学びの経験となるよう、事業内容をアップデートした。

■ 概要

全国の小・中学生等が長崎市に集い、被爆体験講話や平和祈念式典への参加などを通じて被爆の実相や平和の尊さを学習する「青少年ピースフォーラム」(長崎市主催)に小中学生等を派遣し、全国から派遣される青少年と一緒に被爆の実情等を学習した。

■ 日程及び内容

① 保護者説明会及び事前研修会

日程:2022年7月31日(日) 9:00~12:00

場所:北九州市平和のまちミュージアム

概要:保護者説明会と併せて、本市における戦争の歴史や平和の取り組み等についての講義や平和のまちミュージアムの見学などを行った。

② 青少年ピースフォーラム参加

日程:2022年8月8日(月)~9日(火) (1泊2日)

行程:8月8日(月) 8:00~

市役所本庁舎集合・出発 → 【長崎市へ移動】 → 昼食 → 城山小学校見学
→ ピースフォーラム(被爆体験講話・フィールドワーク等) → 宿泊先(長崎市)

8月9日(火) ~19:20

宿泊先 → 長崎原爆資料館 → 平和祈念式典への参加(一部は出島メッセにて式典同時中継を視聴) → 昼食 → ピースフォーラム(平和学習会(意見交換会)) → 【北九州市へ移動】 → 市役所本庁舎着・解散

③ 事後報告会(市長報告)

日程:2022年8月22日(月) 14:00~15:30

- ・ 14:00~14:40 市長報告
- ・ 14:50~15:30 事後報告会

場所:北九州市役所本庁舎 3F 大集会室

概要:青少年ピースフォーラムでの学習について、市長への報告や感想を発表する事後報告会を開催した。

■ 参加者

市内に居住する小学生(5、6年生)、中学生、高校生 20名 ※ 応募者 60名

区分	小学生	中学生	高校生	計
男	1(5)	3(7)	0(0)	4(12)
女	5(22)	4(13)	7(13)	16(48)
計	6(27)	7(20)	7(13)	20(60)

※()は応募者

引率者として、市職員2名、大学生ボランティア2名、そのほかに看護師1名

■ 参加者の感想(抜粋)

- ・ 被爆者の方の思いを受け継ぎ、この活動で学んだことを一生忘れることなく、身近な家族や友達、そしてこれから出会う様々な人達に伝え続けていきたい。
- ・ もうこんな戦争があってはならない。
- ・ 家族がいること、食べる物があること、着る物、履く物があることに感謝して、毎日を大切に生きようと思った。

- ・この事業に参加し、改めてピースコミュニケーター(平和を語る人)、ピースクリエイター(平和を創る人)になろうと決心した。
- ・色々な学年の人達と交流して、お互いに協力し合えた経験は一生の宝物となった。



(2) 長崎市平和派遣事業

■ 概要

8月9日に、親子で長崎を訪れ、被爆遺構や長崎原爆資料館の見学を行うとともに、田上長崎市長(当時)への表敬を行った。本事業は、原爆について知識を深めるとともに、夏休みに親子で戦争と平和について考え語り合う契機とすることを目的としている。

■ 日程及び内容

2022年8月9日(火) 7:00~19:00

- 7:00 集合・出発式(JR小倉駅新幹線口)
- 7:15 出発
- 10:35~11:43 平和祈念式典参加(出島メッセ長崎)
 - ※ サテライト会場での映像中継及び献花
- (昼食)
- 13:00~15:00 城山小学校・爆心地公園の見学
- 15:00~15:10 長崎市長表敬(原爆資料館ホール)
 - ※ 子ども3名が感想を発表し、長崎市長へ千羽鶴を贈呈
- 15:10~16:00 原爆資料館見学
- 16:00 長崎市出発
- 19:00 北九州市着・解散(JR小倉駅新幹線口)

■ 参加者

88組(176名) ※176組(352名)の応募があったため、抽選により決定
引率者として、市職員2名(総務局総務部長、当館職員)

■ 参加者の感想(抜粋)

- ・親子で平和について話ができて、参加して良かった。
- ・長崎市長のお話を伺うことができ、貴重な時間を過ごすことができた。

- ・ テレビ等で見ると、実際に訪れることで、どれだけ悲惨な状況だったかを知ることができた。
- ・ 長崎市の8月9日の空気感をしっかりと経験することができた。

(3) 長崎～小倉 次世代交流平和推進事業

■ 概要

国連軍縮週間に合わせ 10 月に長崎市で開催される「市民大行進」に、北九州市の大学生等を派遣し、現地の平和活動に取り組む若者「青少年ピースボランティア」とともにボランティア活動に参加するなど、北九州市と長崎市の次世代を担う若者同士の交流を進め、平和の大切さを考える機会の充実と発展を図った。

■ 日程及び内容

① フィールドワーク

日程:2022年10月25日(金)

内容:城山小学校見学、永井隆記念館見学、原爆資料館見学、被爆体験講話

② 「市民大行進」参加

日程:2022年10月26日(土)

内容:運営業務ボランティアとして、風船、チラシ配布等を行った。

- * 市民大行進の会場にて、開会前に田上長崎市長に直接お会いする機会をいただき、参加者代表が挨拶を行った。また、開会後の市長挨拶でも、北九州市の参加を紹介していただいた。

■ 参加者

大学生 13 名、社会人 1 名

引率者として市職員 3 名

■ 参加者の感想(抜粋)

- ・ 同じ大学生(ピースボランティア)がこんなにも平和について考えているということに感動したと同時に、どこか他人事で済ませていた自分達が恥ずかしくなった。
- ・ 世界から一日も早く戦争がなくなることを願って行進した。授業だけでは学べない平和の大切さを知る事ができた。
- ・ この事業で学んだ平和の大切さを子ども達にも伝えていきたい。



(4) 長崎青少年ピースボランティア×北九州市学生による交流会

■ 概要

長崎市で平和活動に取り組んでいる「青少年ピースボランティアに所属する大学生・高校生が 2022 年度の研修の一環として「平和のまちミュージアム」に来館し、展示を見学するとともに、1945 年 8 月 8 日の「八幡大空襲」の体験者・松尾高林氏をお招きして空襲体験の講話を聴き、北九州市の大学生・高校生と意見交換を行った。

意見交換は、グループに分かれ、「『交流』・『継承』・『醸成』、私たちにできること～ボランティア活動の課題と今後について」というテーマで実施した。

■ 日程及び内容

2022 年 11 月 13 日(日) 13:15～15:10

13:15～13:55 北九州市平和のまちミュージアム見学

13:55～14:35 八幡大空襲体験講話(松尾高林氏)

14:40～15:10 交流会(意見交換会)

■ 参加者

長崎市青少年ピースボランティア 13 名(大学生 5 名、高校生 9 名)

公益財団法人長崎平和維持協会職員 9 名

当館の長崎市への派遣事業に参加経験のある北九州市の学生 7 名(大学生 3 名、高校生 4 名)

■ 参加者の感想(抜粋) ※ 長崎市ピースボランティアと北九州市の学生の感想

- ・ 造兵廠がもたらした豊かさと、その反面の戦時下での苦しみの 2 つの側面を学ぶだけでなく、北九州の方が長崎原爆に関してどのように捉えているのかも理解することができた。
- ・ 原爆が落とされたのは広島と長崎ではあるけれど、それは他の県が何もなかったというわけではないということ。私達はもっと第二次世界大戦時に他の県や外国で起きた出来事についても学ばなければいけないなと思った。
- ・ 場所は違っても、平和を願う気持ちに変わりはない。今回のつながりを、これからも維持していければと思う。
- ・ 継承の早急性。より多く、他の人を巻き込むために、平和活動に取り組む私たちが働きかけを行わなければならない。

4 映画上映と戦争体験をめぐる対談

Sharing War Experiences KITAKYUSHU 2022

■ 概要

原子爆弾投下後の長崎の市民の日常をテーマにした松村克弥監督の『祈り 幻に長崎を想う刻』を上映するとともに、松村監督と、実際に戦争を体験された児童文学者黒瀬圭子氏とで、いかに後世に戦争の記憶を伝えていくかというテーマで対談を実施し、戦争の

記憶の共有していくことの難しさと重要性について考えた。

■ 日時

2022年8月12日(金) 13:00~16:00

■ 場所

男女共同参画センター「ムーブ」ホール

■ 参加者

約80名〔要申込、参加無料〕

5 戦跡ツアー

■ 概要

北九州市には、200件を超える戦跡があり、身近に戦跡が存在している。市内のそうした戦争遺跡をめぐりながら、解説を聞き、北九州地域における戦時を学び考える機会とした。こうした野外の遺跡巡りは、当館の「野外博物館」的な側面を開拓するためのモデルケースでもある。

戦跡の解説は、熊本学園大学商学部・市原猛志講師と、当館・小倉徳彦学芸員があつた。

【見学コース】

門司地区「出征軍馬の水飲み場」～「旧大連航路上屋」～「手向山公園(砲台跡)」～小倉城周辺「第十二師団司令部正門跡」～山田緑地「山田弾薬庫跡」～大手町公園「小倉造兵廠碑」等

■ 日時

2023年3月12日(月) 9:30~15:00

■ 参加者

23名

■ 反響

参加者募集の段階から希望者が多く、かなりの数の応募を、定員に達したという理由でお断りすることになってしまった。そして参加者からは、是非、他のコースの戦跡巡りも企画してほしいという声をいただいた。



6 連携事業

(1) 文化資源調査隊活動支援(北九州市立大学)

北九州市立大学文学部の教員有志が、地域貢献の実践の一つとして、文化資源調査隊を結成し、市内の文化施設との交流事業を展開するとともに、授業の一環として市内文化施設を利用して実践的な学びを具体化している。

当館は、文化資源調査隊の教員が関わる同学部の後期科目の文化資源演習に協力した。受講学生がグループを組んで見学し、その学習内容をもとにポスターを作成して大学で公開した。詳細は「(3)大学の講義・演習による利用への対応」で触れる。

なお次の(2)の文学部公開講座への参加も、同学部文化資源調査隊との関りのなかで実施されたものである。

(2) 北九州市立大学文学部公開講座

■ 主催等

主催:北九州市立大学文化資源調査隊(同大学文学部)

共催:北九州市平和のまちミュージアム

■ 公開講座テーマ

「語られる戦争、つなぐ平和 ～北九州市平和のまちミュージアムの挑戦～」

■ 日時

2023年1月18日(水) 18:00～

■ 場所

北九州市立大学北方キャンパス本館1階 A-101 教室

■ 概要

北九州市立大学文学部文化資源調査隊に属する同大文学部の真鍋昌賢教授、中山俊准教授より、当館を中心に公開講座を企画するよう打診があり、大学との連携の一環として積極的に参加し、開館したばかりの当館のコンセプト等をPRする講座を実施した。

前半で、当館の小倉徳彦学芸員と水谷桃子学芸員が報告を行なった。後半は、前半の報告をふまえて、市民センターを拠点に戦争体験の聞き取りと継承事業を具体化してきた西門司市民センター渡辺いづみ館長(当時)の自身の実践に基づくコメントと、戦時下の大衆文化について研究をしている北九州市立大学文学部・真鍋昌賢教授のコメントがあり、そこに当館の重信館長が加わり、討論を行った。

■ 講座内容

挨拶 重信幸彦(平和のまちミュージアム 館長)

講義1 水谷桃子(平和のまちミュージアム 学芸員)

「戦争体験の継承とその可能性」

講義2 小倉徳彦(平和のまちミュージアム 学芸員)

「北九州と戦争の記憶」

討論 「平和のまちミュージアムで戦争体験をどう活かすか」

司会 重信幸彦

パネラー 渡辺いづみ(西門司市民センター館長(当時))、真鍋昌賢(北九州市立大学文学部教授)、小倉徳彦、水谷桃子

■ 参加者および視聴者

会場で参加した聴衆は 121 名、そのほかオンラインでのライブ視聴者もいた。なお、その後、YouTube 上で申込者に限定して録画が提供された。

(3) 大学の講義・演習による利用への対応

北九州市立大学をはじめとする周辺の大学が、講義や演習のなかで、当館を利用するケースが複数あった。平和学習により学校単位で訪れる機会がある小学校、中学校に比べ、大学生がアクセスする機会は極端に少なくなる。

大学教育のなかで、当館をどのように有効活用しうるかは、一つの課題であり、平和教育という文脈だけでなく、地域の近現代史のミュージアムとしての可能性を広げる意味でも試行錯誤を重ねていく必要がある。いくつか今後、参考になるケースを紹介する。

■ 北九州市立大学基盤教育センター「アカデミック・スキルズ I (考える力)」(前期科目)

① 担当: 漆原朗子教授

② 受講者: 30 名

③ 時期: 2022 年 6 月 23 日(木)~6 月 25 日(土)

④ 概要: 90 分の授業時間内に 30 名の受講者が一度に見学を実施することが困難だったため、期間を定めて受講者がそれぞれ当館を見学した。

課題は、「自身が知っていた情報、ないし理解していた、あるいは想定していた内容と異なる点」について具体的な展示名を挙げて、500 字程度で論述するというテーマであった。

提出された 30 件の課題は、後日、匿名化されたうえで、資料として当館と共有された。大学生がどのような知識を持ち、それぞれ展示をどう受け止めたかがはっきりとうかがえる当館にとっても貴重な資料であるといえる。

■ 九州産業大学国際文化学部 ゼミナール

① 担当: 藤田尚志教授 + 川松あかり講師

② 受講者: 40 名

③ 時期: 2022 年 11 月 12 日(土)

④ 概要: 午前中を当館の展示見学にあてた。まず、見学に先立ち、重信館長が 45 分ほど、展示内容とその背景、見学のポイントなどについてレクチャーを行い、1 時間ほど展示見学を実施した。

昼食をはさみ午後は、展示見学をしたうえでの質問と応答を行った。そ

の後、あらかじめグループ学習をしてきた「代用品」「配給制度」などについて報告と討論が行われた。

■ 北九州市立大学文学部 地域文化資源演習

① 担 当：真鍋昌賢教授 他

② 受講者：10 名程度

③ 時 期：2022 年後期学期

④ 概 要： 同科目は、「市内の文化施設を見学し、文化施設そのものと、その常設展示を紹介するポスター等をグループで作成する」ことを通して、「文化資源の発見や継承、活用、課題解決等に向けた基本的な手法や考え方」について学び、「地域の文化振興に寄与する人材育成」を目指すことをうたっている(北九州市立大学シラバスより)。

2022 年度は、その対象文化施設の一つとして、当館も選ばれ、学生が見学のために来館した。成果物としてポスターが作成された。

■ その他、大学による当館の利用

その他、以下の大学から団体の見学があった。

*九州国際大学 現代ビジネス学部地域経済学科 三輪仁教授ゼミ

*福岡大学人文学部歴史学科

(4) JRウォーキング (JR九州・小倉北区役所)

■ 主催

JR 九州、小倉北区役所

■ 日程

2022 年 5 月 14 日(土)

■ 概要

小倉駅を基点として、ミュージアム施設等をまわるウォーキングコースのポイントの一つとして、参加した。

当日、ウォーキング開催中の午前中に、340 名の来館者があった。

(5) 原爆犠牲者慰霊平和祈念式典サテライト会場設営

■ 日程

2022 年 8 月 9 日(火)

■ 概要

勝山公園で行われる原爆犠牲者慰霊平和祈念式典のサテライト会場として当館を開放し、式典の様様をリアルタイムで配信した。

7 講演

当館の学芸員をはじめとする職員が、依頼を受けて、以下のような講演を行った。

(1) 北九州市立大学基盤教育センター特別講師

■ 担当

平和のまちミュージアム学芸員 小倉徳彦

■ 対象授業

南博教授担当 基盤教育科目「地域の文化と歴史」

■ 実施日時

2022年7月22日(金)～8月4日(木)公開

■ 概要

特別講師として1時間分を担当した。オンデマンド型で、録画授業は配信され、期間中に401人が視聴した。

(2) ESD協議会講演

■ 担当

平和のまちミュージアム館長 重信幸彦

■ 主催

北九州市ESD協議会

■ 日時

2022年11月26日(土) 14:10～16:30

■ 場所

北九州まなびとESDステーション

■ 概要

「語り合おう！ 学び合おう！ 北九州のパブリックヒストリー」

語り場① 講師 早乙女愛(映像プロデューサー (株)記録同人代表)

「戦争体験を受け継ぐには ～聞く・語る・伝える方法～」

学び場① 講師 重信幸彦(平和のまちミュージアム 館長)

「誰が歴史を語るのか？ ～ローカルな歴史実践の可能性～」

語り場② 実践者とトークセッション

早乙女、重信に加え、渡部いづみ(西門司市民センター館長)、原賀いづみ(北九州インタープリテーション研究会代表)を交え、主に戦争の記憶の発掘と継承を中心とした民間における歴史実践の可能性について討論を行った。

(3) ヒロシマ・ピースフォーラム講演

■ 担当

平和のまちミュージアム学芸員 小倉徳彦

■ 主催

広島市、(公財)広島平和文化センター、広島市立大学

■ 日時

2023年1月28日(土) 13:30~16:30

■ 場所

広島平和記念資料館 メモリアルホール

■ 概要

2022年10月22日(土)、11月19日(土)、2023年1月28日(土)の3日間にわたり、平和への思いを深め、平和な世界の実現に向けた行動のきっかけとなることを目的に、「令和4年度ヒロシマ・ピースフォーラム(後期)」が開催された。当館学芸員がこの講座の第3回において、「原子爆弾が落ちる“はず”だった北九州」と題する講演を行った。

(4) 未来へのとびらオンライン授業

■ 担当

平和のまちミュージアム学芸員 水谷桃子

■ 主催

北九州市教育委員会

■ 日時

2023年2月10日(金) 9:10~11:10

■ 場所

北九州市平和のまちミュージアム

■ 概要

未来へのとびらオンライン授業に参加している中学生・小学生の約60名を対象に、オンライン中継で当館展示を解説しながら、クイズや質疑応答を交えてコミュニケーションをとり、楽しく参加できるよう工夫した。

(5) 「十八の会」講演と平和のまちミュージアム見学

■ 担当

平和のまちミュージアム館長 重信幸彦

■ 主催

十八の会

■ 日時

2023年3月11日(土) 13:00~

■ 場所

北九州市立生涯学習総合センター

■ 概要

北九州市の社会指導主事、社会指導主事補の団体「十八の会」において、「展示」は、受け手の想像力が関わり初めて成立することについて講演し、後半は、それを踏まえて

当館の常設展の主な展示の背景について解説した。

- ・ 前半 「展示を<読む>ために」 講演 重信幸彦
- ・ 後半 平和のまちミュージアム展示見学 解説 重信幸彦

VI 広報

1 本庁舎1階市民ホールにおけるパネル展示

■ 期間

2022年8月2日(火)～8月31日(水)

■ 場所

北九州市本庁舎1階市民ホール

■ 概要

本市が、長崎に投下された原爆の第一投下目標になった都市であった経緯を踏まえ、原爆の被害の実相を、写真パネルにより展示し、若い世代に戦争の悲惨さ、平和の大切さや命の尊さを伝えるとともに、2022年4月19日にオープンした「平和のまちミュージアム」のPRを実施した。

■ 展示場所

市役所本庁舎1F市政情報コーナー
自販機前パネル3枚(6面)

2 ホームページ・SNS関係

(1) ホームページの運用

開館時からホームページを開設し、随時更新を行っている。

常設展示室の紹介、展示替えをはじめ、企画展やイベントの告知等を行っている。

(2) LINE・ツイッター(現 X)の活用

LINEやツイッター(現 X)での情報発信を開始し、企画展をはじめとする各種イベントや案内等を随時行った。

(3) 学芸員日記

北九州の戦争・平和に関連するエピソードや歴史資料の解説、また、当館の取り組みなどを学芸員の視点で紹介する「学芸員日記」を毎週金曜日に公式ホームページで発信した。

(4) Wi-Fi の提供

入館者へのサービスとして、Wi-Fi を無料で公開している。

3 平和のまちミュージアム「LINE de スタンプラリー」の実施

■ 期間

2023年2月1日(水)～3月22日(水)

■ 概要

当館の公式 LINE を活用したスタンプラリー。既存の LINE アカウントを利用することで容易に参加できる仕組みで、当館を起点に、市内他9か所の戦跡や文化施設等をめぐり、抽選で賞品を獲得するもの。当館のPRとともに、公式 LINE へのお友達登録が増加した。登録者132名。

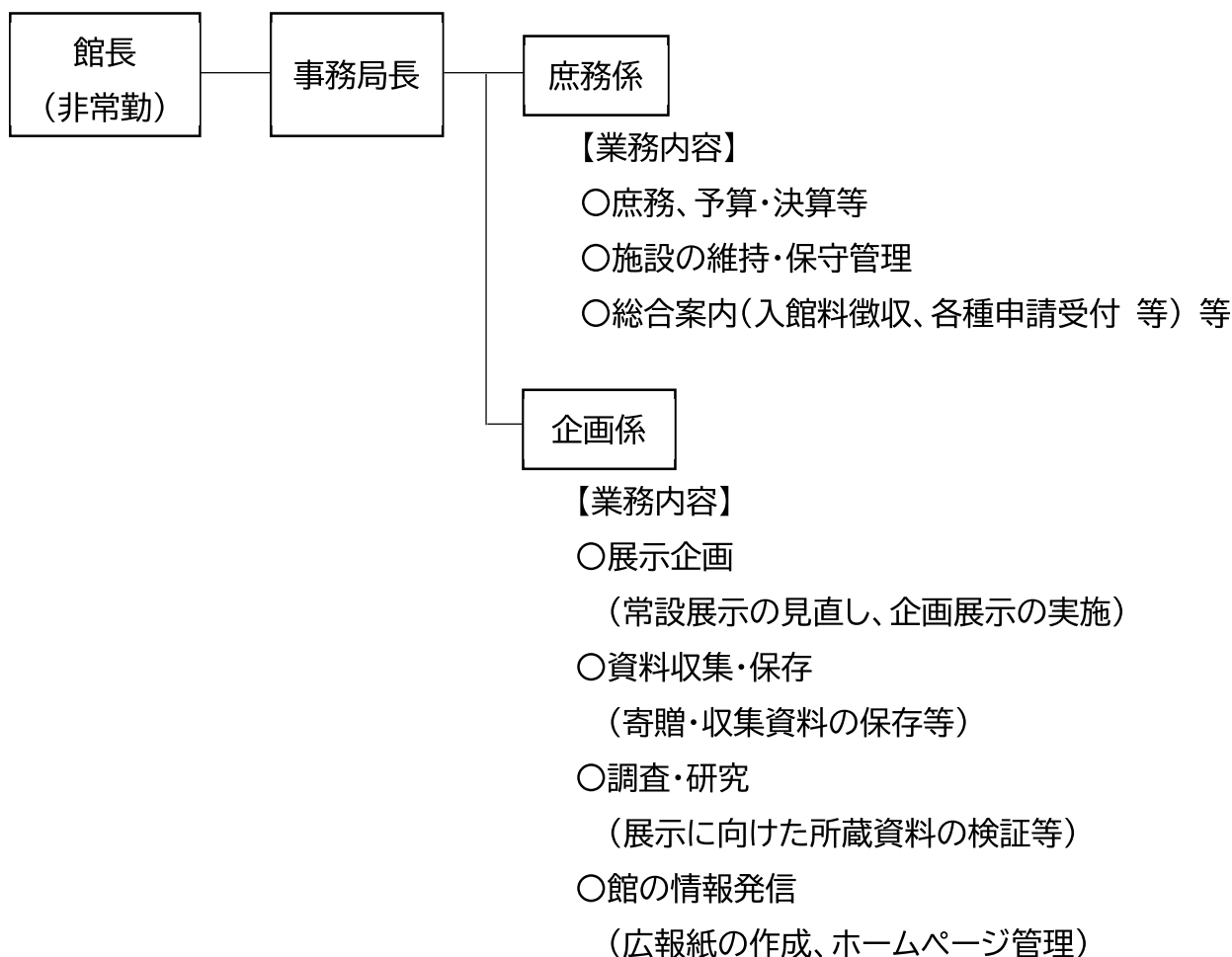
■ スタンプラリー設置場所

- ① 平和のまちミュージアム[小倉北区]
- ② 出征軍馬の水飲み場[門司区]
- ③ 旧大連航路上屋(松永文庫)[門司区]
- ④ 第12師団司令部正門[小倉北区]
- ⑤ 山田緑地(弾薬庫)[小倉南区]
- ⑥ 小倉陸軍造兵廠碑、監視塔・給水塔[小倉北区]
- ⑦ 原爆犠牲者慰霊平和祈念碑[小倉北区]
- ⑧ 小倉城(庭園)[小倉北区]
- ⑨ 松本清張記念館[小倉北区]
- ⑩ 北九州市立文学館[小倉北区]

VII 組織

1 管理運営(事務局)

7名の職員(うち学芸員2名)で当館の運営を行っている。



2 北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会

(1) 概要

■ 設置目的

「北九州市平和のまちミュージアム」の運営や展示等について、有識者等から意見を聴取し、今後の運営や事業の参考にするため「北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会」を設置する。

■ 審議事項

- ・ 当館が実施する運営(事業計画・実績報告)に関すること
- ・ 当館が実施する事業・展示に関すること 等

■ 任期

2年間(2022年8月25日～2024年8月24日)

■ 委員名簿(所属は当時のもの)

委員構成5名(うち女性3名:女性比率:60%)

氏名	所属・補職	備考
近藤 倫明	北九州市立大学特任教授	座長
戸高 一成	呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)館長	
佐方はるみ	九州女子大学特任教授	副座長
出口 敬子	聞き書きボランティア「平野塾」副代表	
財津 梨花	北九州市立大学文学部3年 (桜丘小学校学習支援プロジェクトリーダー)	

オブザーバー

篠崎 桂子	長崎原爆資料館長
-------	----------

(2) 運営懇話会開催状況(第1回運営懇話会)

■ 開催日

2022年8月25日(木)

■ 議題

平和のまちミュージアムの集客事業について(今後の方向性)

■ 主な意見

【高校生・大学生に向けた取組み】

- 大学生が主に、昼間というよりも、夜の時間での動きというがあるので、例えばナイトツアーの企画があれば、若者も来やすいのではないか。
- 長崎原爆資料館では、海ごみを拾うボランティアの学生と一緒に、SDGsと平和を考える講座を行っている。気楽で、身近なところにネタは落ちており、アイディア

をいっぱい出してもらえればいい。

- 高校生・大学生は車を持っていないので、公共交通機関を使うことがほとんどだと思う。公共交通機関の駅に、チラシやポスターを設置すると、平和のまちミュージアム自体の存在を知ってもらえるきっかけになる。
- 平和のまちミュージアムはラインを活用しているが、高校生・大学生となると、インスタグラムやツイッターなどのSNSを使うことが多く、インスタグラムやツイッターは、フォローや登録をしていなくても、情報が流れてくることがあるので、それらを使うと、もっと若い世代の集客率が上がるのではないか。

【幅広い世代に向けた取組み】

- 平和のまちミュージアムでは、命の重さ・尊さを学べるので、高校生・大学生という括りではなく、医療系の専門学校に向けたPRも効果的である。
- 長崎には医科大学があり、そこが、原子爆弾で壊滅的にやられてしまったので、例えばテーマを医療救護に絞って、医療系の大学や医師会とヘアプローチをすとか、焦点を絞ってその分野にアプローチをしていくっていうのは、面白い考え方である。
- 長崎原爆資料館ではプロサッカーチームのVファーレン長崎と一緒に活動を行っており、そのサポーターたちは平和の活動をすることは当たり前みたいな認識になっている。ホームゲームがあったときに、相手チームのサポーターが原爆資料館を見に来るといった流れがある。

【団体との連携に向けた取組み】

- 学校に語り部を派遣したが、平和のまちミュージアムに行った学校と、行っていない学校を比べると、感想文の内容が違う。語り部を活用した学習を平和のまちミュージアムとタイアップして行えば効果が出ると感じた。
- 焼夷弾や建物疎開などの言葉は、子どもたちには分からない。平和のまちミュージアムに来て、少し知識が身に付いていれば、語り部の話を聞いた時の理解の仕方が深くなると感じた。